KONICA MINOLTA

適用機種：販売モデルは地域により異なります。

カラー機（CL）	C14010シリーズ、C5080シリーズ、C8100シリーズ
モノクロ機（BW）	---

オペレーションクイックガイド - No. 12 -

自動検品（AI-101）

Ver. 02.02

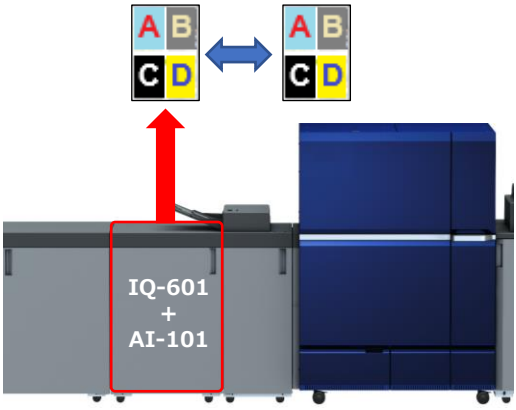
目次

1 自動検品って何？

2 事前設定

3 自動検品の実施

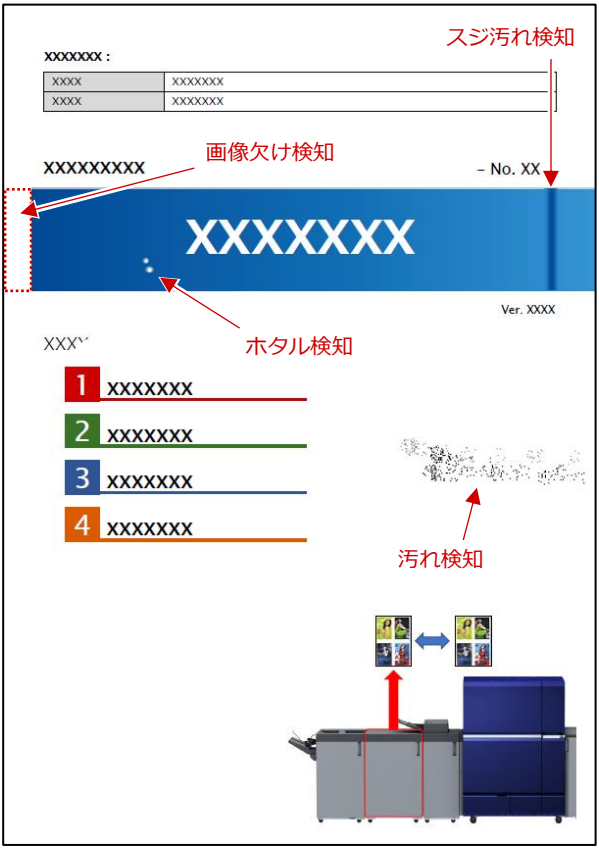
4 よくあるご質問



1 自動検品って何？

1-1. IQ-601＋AI-101（自動検品）で何ができるの？

IQ-601＋AI-101（自動検品）は、自動で印刷の不良を検知します。



1-2. どれぐらいの汚れを見つけられるの？

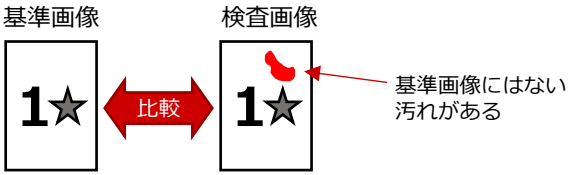
検品するレベルを［ゆるい］、［ふつう］、［きびしい］の3段階から選択できます。
デフォルトの設定ではおおむね下記のサイズの汚れを検知します。

5 mm以上	3 mm以上	1 mm以上
		
［ゆるい］	［ふつう］	［きびしい］

1 自動検品って何？

1-3. どうやって印刷の不良を見つけるの？

AI-101が「正解の印刷画像」と「検品対象の印刷画像」を比較して、不良を検知します。
この「正解の印刷画像」のことを、自動検品では 「基準画像」と呼びます。



1-4. 「基準画像」と「検品対象の印刷画像」はどうやって作ればいいの？

設定ひとつだけで大丈夫です。Print ManagerまたはPS Plug-inドライバー上で［RIP画像で検品］を選択して印刷を実行するだけで、内部的に基準画像を作成しながら自動検品が実施されます。

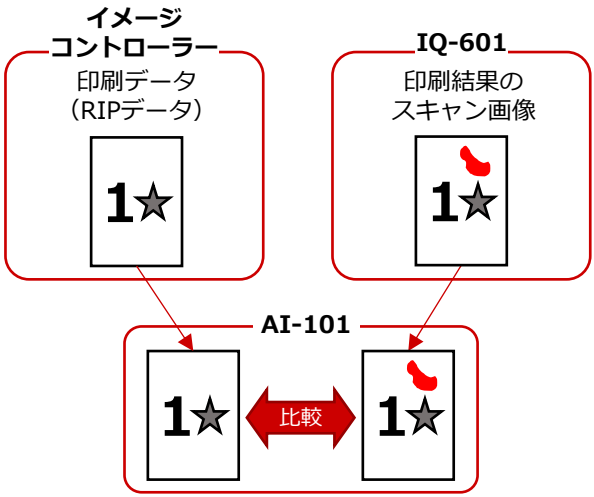
参考

使用したい検品機能によっては、基準画像の登録手順が必要になります。

補足

自動検品では、イメージコントローラーで作成された印刷データ（RIPデータ）を「基準画像」として使用します。また、「検査対象の印刷画像」には、IQ-601によって自動スキャンされた印刷結果の画像を使用します。

つまり、「RIPデータ（基準画像）」と「スキャン画像（検査画像）」を比較して自動検品を行います。

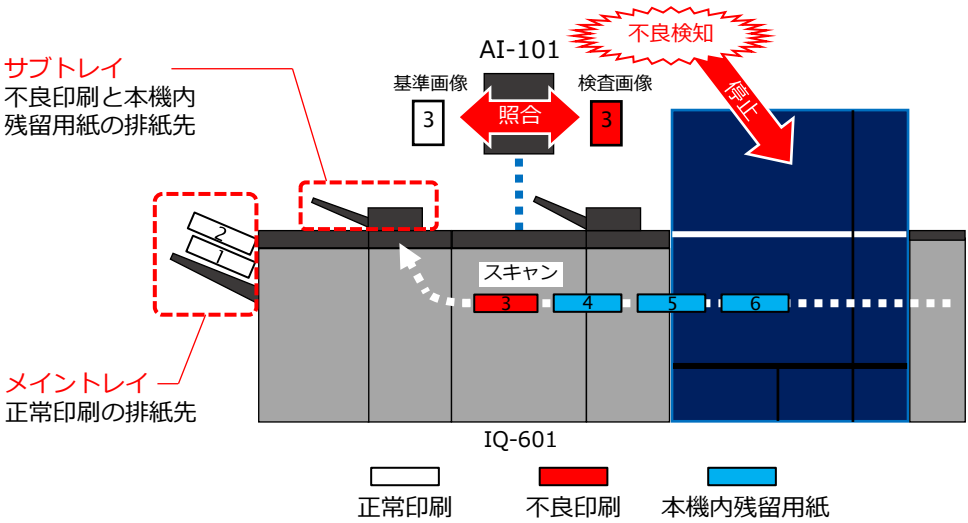


1 自動検品って何？

1-5. 検知した不良印刷はどうなるの？

不良を検知したとき、本機内には、検知した不良印刷とそれに後続する印刷用紙が留まっている状態になります。

それらの不良印刷と後続用紙は、ジョブの排紙先トレイとは別のサブトレイに排紙されます。ジョブの排紙先と異なるトレイに不良印刷を排紙することで、正常な印刷物の中に不良印刷が混ざらないようにします。（設定により、同じトレイに排紙することもできます。）



1-6. 自動検品を実施するには、どんな順番で作業すればいいの？

基本的な流れは以下のようになります。

1. 事前設定

基準画像の形式や、不良検知したときの本機の動作設定などを行います。詳しくは**2章「事前設定」**をごらんください。

2. 自動検品対象ジョブの印刷

Print ManagerやPS Plug-inドライバー上で［RIP画像で検品］を選択し、自動検品を実施します。詳しくは**3章「自動検品の実施」**をごらんください。

2 事前設定

2-1. 事前設定

自動検品を実施する前に、本体のタッチパネル上で、事前設定をする必要があります。
本機の使用状況に応じて各項目を設定してください。

画面へのアクセス
タッチパネル -［機械状態］-［IQ機能設定］

No.	項目	デフォルト設定
1	自動画質補正位置ズレチェック*1	ON
2	異常検知後の動作*2	停止
3	位置ズレ／設定基準外画像検知時仕切り紙挿入*2	しない
4	異常検知時の自動再印刷*2	する
5	自動検品レポートの作成*3	しない
6	基準内レポートの作成*4	する
7	自動検品レベル設定	
	汚れ、スジ汚れ、ホタル	（項目によって異なる）
	角折れ検知	する：ゆるい
8	基準画像の自動削除	する
9	基準画像種類選択	RIPデータ
10	検査除外領域設定	先端5mm、後端5mm、両脇5mm
11	レベル別エラー集計*4	しない
12	OCR対象文字	黒文字
13	基準画像ジョブの排紙先*5	ジョブ設定に従う

*1 ［自動画質補正］と共通の設定です。［自動画質補正］が［オフ］のとき、自動検品機能を使って位置ズレをチェックします。［自動画質補正］について詳しくは「オペレーションクイックガイド No. 07冊」をごらんください。
*2 ［自動画質補正］と共通の設定です。
*3 自動検品レポートの最低保証保存枚数は 9 万ページです。
自動検品レポートは、以下の条件の時に日付の古いレポートから1件ずつ自動で削除されます。
- 自動検品レポートのHDD保存容量が90%を超えた場合（容量が80%以下になるまで削除されます。）
- ［自動検品レポート一覧］のリスト件数が270000件を超えた場合（リスト件数が240000件になるまで削除されます。）

任意のレポートを選択し、手動で削除することも可能です。
*4 自動検品レポートに関連する設定です。［自動検品レポートの作成］が［する］の場合に設定できます。
*5 サブトレイへの排紙は、ジョブの排紙先が大容量スタッカー LS-507のメイントレイの場合だけ行えます。

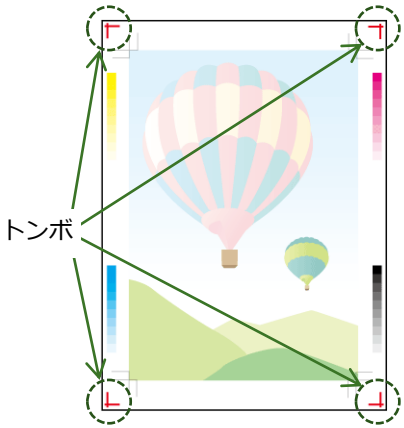
2-2. 各事前設定項目の説明

No.	項目	デフォルト設定
1	自動画質補正位置ズレチェック	ON

印刷画像に位置ズレが発生していないかを確認します。
［自動画質補正］の設定によって、位置ズレチェックの方法が変わります。

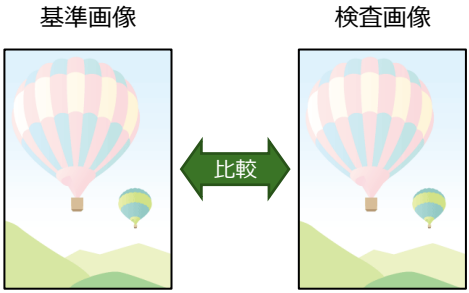
［ON］： 設定したズレ量以上の画像位置ズレを検知します。
［OFF］： 位置ズレのチェックをしません。

［自動画質補正］*で［位置］または［位置/階調］を選択している場合



断裁代にトンボを印字し、それをIQ-601でスキャンすることで位置ズレをチェックします。

［自動画質補正］*で［オフ］を選択している場合



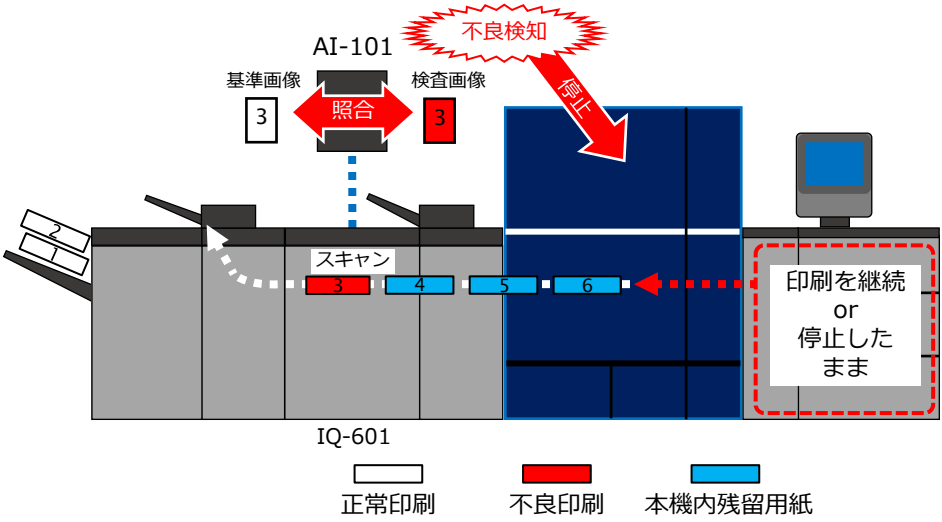
基準画像と検査画像を比較することで、トンボレスで位置ズレをチェックします。

* ［自動画質補正］は、Print ManagerまたはPS Plug-inドライバーの［品質最適化］タブから設定します。

2 事前設定

No.	項目	デフォルト設定
2	異常検知後の動作	停止

不良を検知した後、自動で印刷を再開するか、印刷を停止したままにするかを設定します。



［停止］： 不良を検知したとき、本機内の用紙をすべて排紙した後、印刷を停止したままにします。印刷停止後は、印刷を継続するか中止するかを、本体操作パネルで手動で選択します。

［継続出力］： ［検知回数］で設定した上限に達するまで、自動で印刷を継続します。［検知回数］ を［02］と設定した場合は、一回目の検知では自動で印刷を継続し、二回目の検知では印刷を停止します。

後処理（中綴じ、平綴じなど）がある場合は、［継続出力］を選択していても［停止］と同じ動作になります。

［検知回数］を［00］に設定した場合

［検知回数］を［00］にすると、［異常検知時の自動再印刷］の設定によって動作が変わります。

- ［異常検知時の自動再印刷］が［する］：
  - 不良を1回検知すると印刷が停止します。（［停止］と同じ動作です。）
- ［異常検知時の自動再印刷］が［しない］：
  - 不良を何回検知しても再印刷せずに、そのまま印刷を継続します。

2 事前設定

No.	項目	デフォルト設定
3	位置ズレ／設定基準外画像検知時仕切り紙挿入	しない

印刷の不良を検知した後、仕切り紙を挿入するかしないかを設定します。

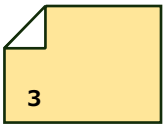
［する］： 印刷の不良を検知したとき、仕切り紙を挿入します。
［する］に設定した場合は、［仕切り紙挿入］ボタンがアクティブになります。［仕切り紙挿入］を押して、仕切り紙に使用する用紙がセットされたトレイを選択します。

［しない］： 印刷の不良を検知しても、仕切り紙を挿入しません。

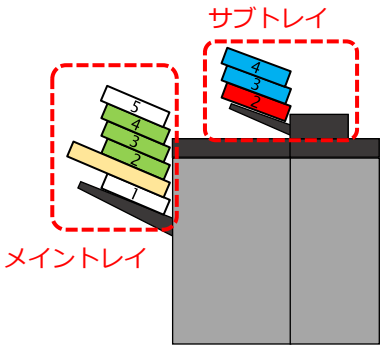
仕切り紙を挿入する場合、［異常検知時の自動再印刷］の設定によって、仕切り紙が挿入される位置が変わります。

［異常検知時の自動再印刷］
［する］

仕切り紙：
印字あり
※印字は、パージされた印刷枚数を示しています。

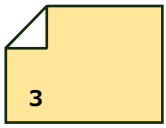


仕切り紙挿入位置：
リカバリー印刷の前

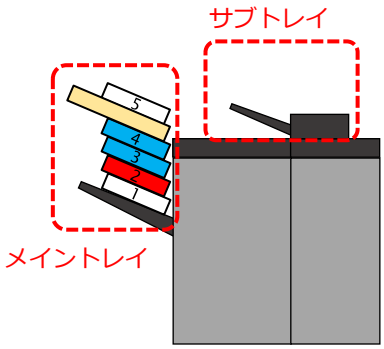


［異常検知時の自動再印刷］
［しない］

仕切り紙：
印字あり
※印字は、仕切り紙の何枚前に不良があったのかを示しています。



仕切り紙挿入位置：
印刷不良検知時の機内残留用紙の後



正常印刷　不良印刷　本機内残留用紙　リカバリー印刷（自動再印刷）　仕切り紙

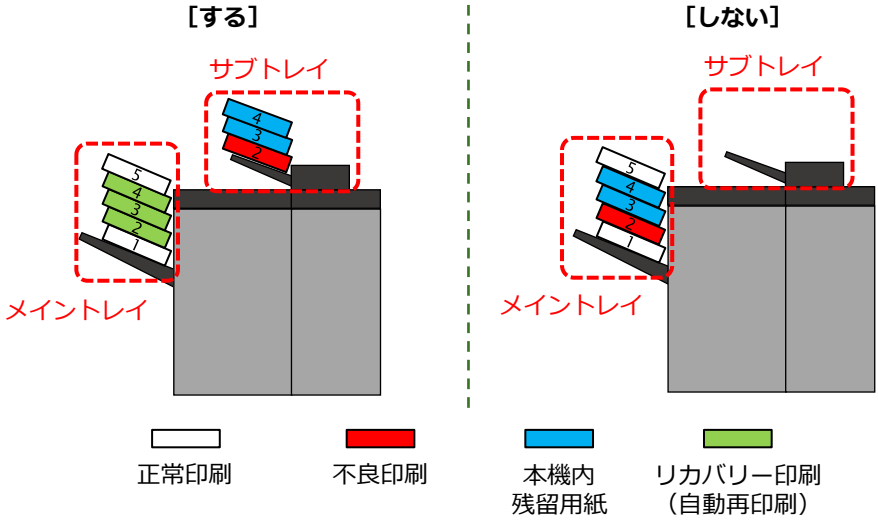
2 事前設定

No.	項目	デフォルト設定
4	異常検知時の自動再印刷	する

印刷の不良を検知したとき、不良のあったページを自動で再印刷するかどうかを設定します。

［する］： 不良を検知した印刷とそれに後続する本機内部の残留用紙をジョブの排紙先とは別のトレイに排紙（パージ）します。そのパージされたページを自動で再印刷します。

［しない］： 不良を検知した印刷をジョブの排紙先と同じトレイに排紙します。印刷の不良を検知したページは再印刷せず、続きのページから印刷します。本機内部の残留用紙も自動検品対象になります。



重要

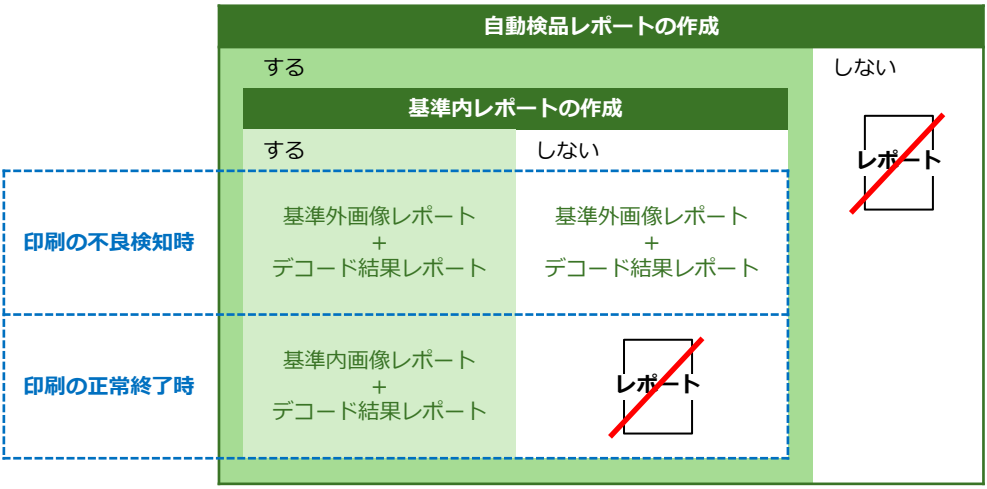
［異常検知時の自動再印刷］を［する］にした場合、不良を検知した印刷は、ジョブの排紙先とは別のサブトレイにパージされます。ただし、下記のサブトレイには、パージすることができません。

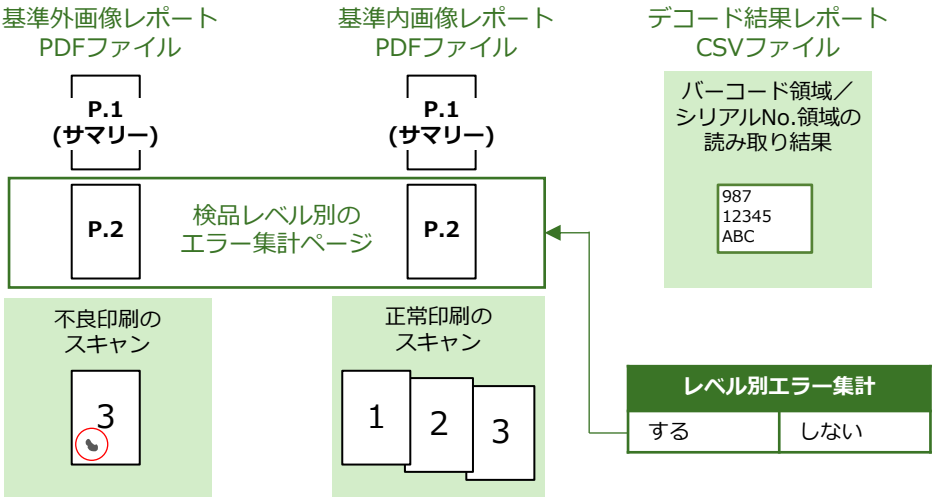
- FD-503
- RU-518
- SD-506
- TU-510
- 重ね三つ折り、中綴じ、中折りモード使用中のSD-513
- IQ-601よりも前段にあるサブトレイ
- ジョブの排紙先トレイよりも後段にあるサブトレイ

2 事前設定

No.	項目	デフォルト設定
5	自動検品レポートの作成	しない
6	基準内レポートの作成	する
11	レベル別エラー集計	しない

自動検品結果のレポート設定をします。
各項目の［する］、［しない］を設定することで、レポートの作成範囲が決まります。





2 事前設定

No.	項目	デフォルト設定
7	自動検品レベル設定	
	汚れ、スジ汚れ、ホタル	（項目によって異なる）

自動検品を実施するときの［ゆるい］、［ふつう］、［きびしい］および［特定領域］のそれぞれの検査精度を設定します。

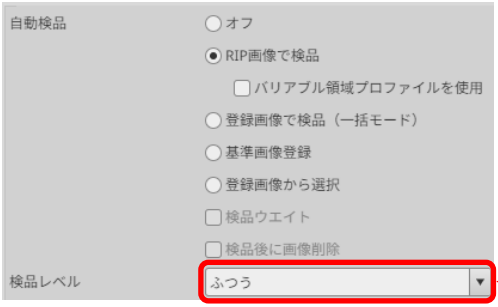
重要

この設定を変更すると、自動検品の検知精度が変わります。必要に応じて、サービス実施店までお問い合わせください。

本体タッチパネル画面（本体側の設定）

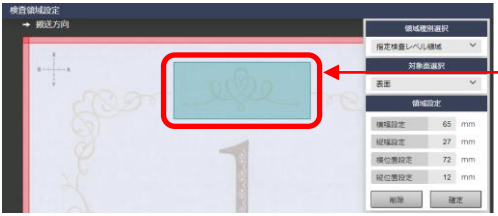
汚れ	ゆるい	ふつう	きびしい	特定領域
検知濃度レベル 範囲：1（大）~7（小）	02	04	07	04
用紙ノイズ除去レベル 範囲：1（強）~7（弱）	02	04	07	04

Print Manager画面（ジョブごとの設定）



Print ManagerやPS Plug-inドライバーで設定する検品レベル
＊ 画面はPrint Managerの場合です。

検査領域設定画面（基準画像の設定）



特定領域は、検査領域設定の［指定検査レベル領域］が指定されている場合の検査領域

汚れ

［検知濃度レベル］：　汚れのサイズの閾値を変更します。レベルを高くすると、より小さな汚れを検知します。

［用紙ノイズ除去レベル］：　汚れの濃度の閾値を変更します。レベルを高くすると、より薄い汚れを検知します。

スジ汚れ

［検知濃度レベル］：　スジ汚れの濃度の閾値を変更します。レベルを高くすると、より薄いスジ汚れを検知します。

［ウラ面透過除去レベル］：　ハイライト部と判定する閾値を変更します。ハイライト部は裏写りしやすく、裏写りをスジ汚れとして誤検知する可能性があるため、スジ汚れの検知を除外しています。レベルを低くすることで、ハイライト部と判定される範囲が広がります。

ホタル

［検知濃度レベル（ハイライト部）］：　ハイライト部のホタル濃度の閾値を変更します。レベルを高くすると、より薄いホタルを検知します。

［検知濃度レベル（シャドウ部）］：　シャドウ部のホタル濃度の閾値を変更します。レベルを高くすると、より濃いホタルを検知します。

［サイズレベル］：　ホタルのサイズの閾値を変更します。レベルを高くすると、より小さなホタルを検知します。

［ウラ面透過除去レベル］：　ハイライト部と判定する閾値を変更します。ハイライト部は裏写りしやすく、裏写りをホタルとして誤検知する可能性があるため、ホタルの検知を除外しています。レベルを低くすることで、ハイライト部と判定される範囲が広がります。

その他

［薄紙時検知レベル補正］：　［ON］にすると、用紙坪量に応じたレベル補正をかけます。

2 事前設定

No.	項目	デフォルト設定
7	自動検品レベル設定	
	角折れ検知	する：ゆるい

出力紙の角折れや四辺の欠けを検知するかどうかを設定します。

［する］： ［ゆるい］を選択すると、出力紙の5mm以上の角折れや四辺の欠けを検知します。
［きびしい］を選択すると、出力紙の0.5mm～1.0mm以上の角折れや四辺の欠けを検知します。

［しない］： 出力紙の角折れや四辺の欠けを検知しません。



No.	項目	デフォルト設定
8	基準画像の自動削除	する

基準画像がリスト保存数の最大数（2000ジョブ）を超えた場合の対処方法を設定します。

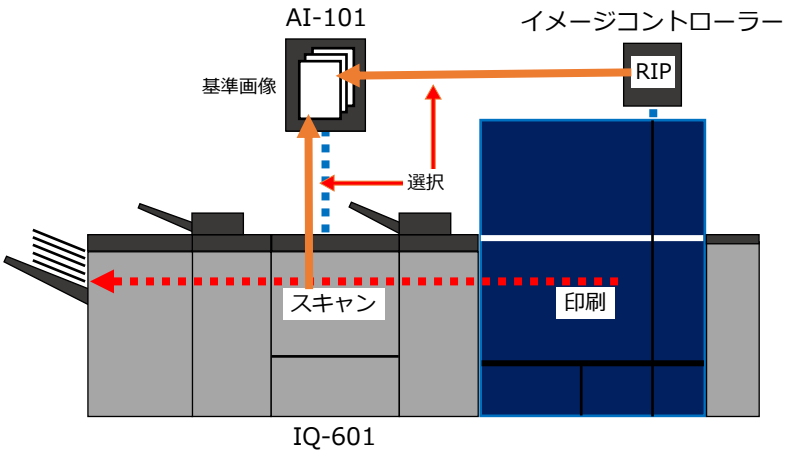
［する］： 保存済みの基準画像から、更新日が最も古いジョブを自動削除し、新しい基準画像を保存します。

［しない］： 本体タッチパネル上に［中止］のポップアップを表示し、基準画像の印刷を中止します。基準画像を新たに保存したい場合は、リストから任意の基準画像を削除し、改めて基準画像の作成を実行します。

2 事前設定

No.	項目	デフォルト設定
9	基準画像種類選択	RIPデータ

作成する基準画像の種類を選択します。
この機能は基準画像を登録する場合に有効になります。

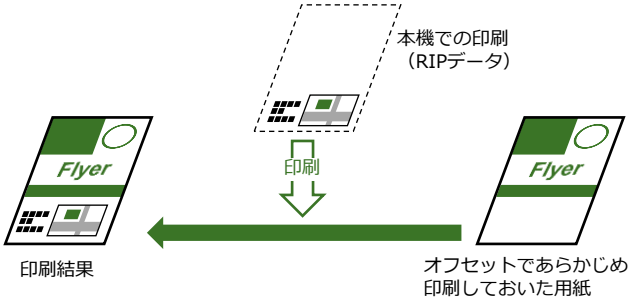


［RIPデータ］：　イメージコントローラで作成したRIPデータを基準画像とします。

［スキャン画像］：IQ-601でスキャンした画像を基準画像とします。追い刷り印刷やスペシャルトナー*を使用する印刷で自動検品を実施する場合は［スキャン画像］を選択します。

* スペシャルトナーは、C14010S/C12010Sの機能です。

（追い刷りの例）
RIPデータには、下地となる印刷部分が含まれていません。そのため追い刷りをする場合は、印刷結果をスキャンして基準画像を作成する必要があります。



参考

基準画像を登録して行う自動検品の手順について詳しくは、「別冊：検査領域設定」の**5-1. 基準画像を使用する自動検品**をごらんください。

2 事前設定

No.	項目	デフォルト設定
10	検査除外領域設定	先端 5mm、後端 5mm、両脇 5mm

用紙端部の誤検出を除外するため、用紙端部の検査除外領域を設定します。また、この設定を変更することで、用紙端部の断裁代を検査領域から除外することもできます。
［詳細設定］を押し、通紙方向に対する用紙の先端、後端、両脇について、除外領域を設定します。

参考

- 自動画質補正用のトンボやパッチは自動で除外領域に設定されます。
- イメージコントローラーで追加したトンボやスタンプは、自動で検査除外領域に設定されます。

No.	項目	デフォルト設定
12	OCR対象文字	黒文字

［シリアルNo.領域］を指定した場合に、読み取る対象文字の文字色を選択します。

［黒文字］： 読み取るシリアルナンバーが黒文字のときに選択します。
［色文字］： 読み取るシリアルナンバーが黒以外の色文字のときに選択します。
［白抜き文字］： 読み取るシリアルナンバーが白抜き文字のときに選択します。

No.	項目	デフォルト設定
13	基準画像ジョブの排紙先	ジョブ設定に従う

基準画像印刷時の排紙先を設定します。

参考

サブトレイへの排紙は、ジョブの排紙先が大容量スタッカー LS-507のメイントレイの場合だけ行えます。

2 事前設定

排紙関連の推奨設定1

自動検品機能を有効的に利用できる設定として、下記をおすすめします。

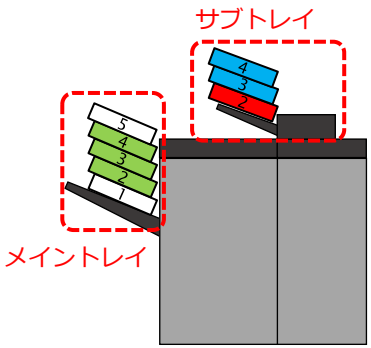
No.	項目	推奨設定1
2	異常検知後の動作	継続出力
3	位置ズレ／設定基準外画像検知時仕切り紙挿入	しない
4	異常検知時の自動再印刷	する
5	自動検品レポートの作成	（任意）

推奨設定1で不良を検知すると

- 不良印刷（および本機内残留用紙）は、ジョブの排紙先トレイとは別のサブトレイに排紙されます。
- パージされたページは、自動でリカバリー印刷されます。
- メイントレイには、正常な印刷物のみが排紙されます。

メリット

- メイントレイに不要な印刷物（仕切り紙や不良印刷）が混入する心配がありません。
- 用紙の種類や設定が異なる仕切り紙を挿入しないため、生産性を維持できます。
- 自動でリカバリー印刷するので、ページ抜けの心配がありません。
- すべて本機が自動で処理をするので、人的ミスを防げます。



正常印刷　不良印刷　本機内残留用紙　リカバリー印刷（自動再印刷）　仕切り紙

2 事前設定

排紙関連の推奨設定2

自動検品機能でなるべくヤレ紙を出さない設定として、下記をおすすめします。

No.	項目	推奨設定2
2	異常検知後の動作	（任意）
3	位置ズレ／設定基準外画像検知時仕切り紙挿入	する
4	異常検知時の自動再印刷	しない
5	自動検品レポートの作成	する

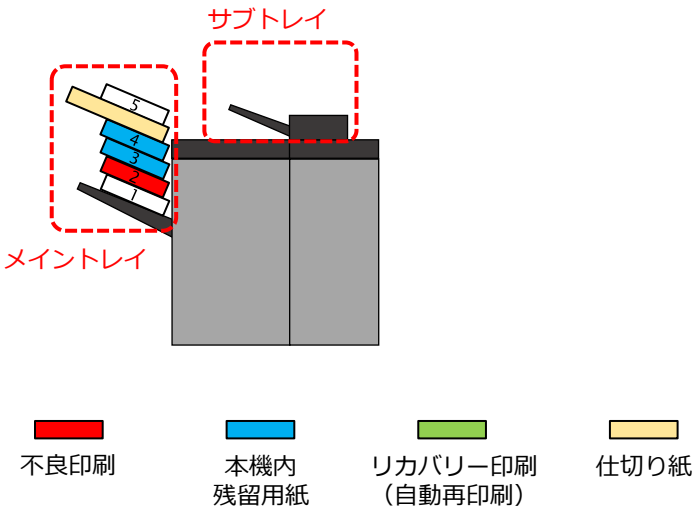
推奨設定2で不良を検知すると

- 正常印刷も不良印刷も同じトレイに排紙し、リカバリー印刷も行いません。
- 不良印刷の場所を示す仕切り紙が挿入されます。また、自動検品レポートが作成されるので、不良印刷が混入したページを特定できます。

メリット

以下の理由でヤレ紙を減らすことができます。

- 不良印刷ではない本機内残留用紙がパージされない。
- 不良印刷の汚れ具合を目視で確認し、許容できる場合はそのまま正常印刷として使用できる。



3 自動検品の実施

3-1. 自動検品の実施手順

「事前設定」をした後、以下の手順で自動検品が実施できます。

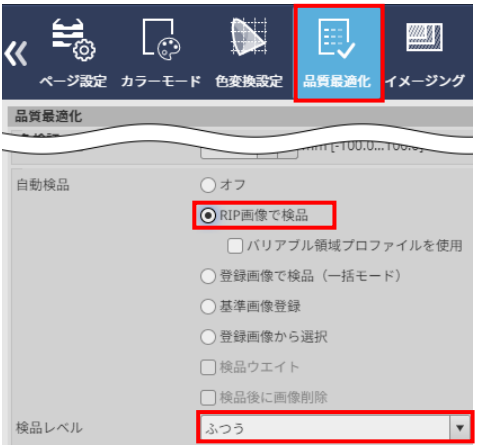
重要

スペシャルトナーを使用する印刷の場合、本手順では自動検品が実施できません。スペシャルトナーを使用する印刷で自動検品を行いたい場合は、「別冊：検査領域設定」の**5-1. 基準画像を使用する自動検品**をごらんください。

* スペシャルトナーは、C14010S/C12010Sの機能です。

* ここではPrint Managerを使用する手順を説明します。
  PS Plug-inドライバーを使用する場合でも設定内容は同じです。

1. Print Managerで自動検品を実施したいジョブを選択する
2. ジョブ設定画面を開く
3. ［品質最適化］タブの［自動検品］から［RIP画像で検品］を選択する
4. ［検品レベル］を［ゆるい］、［ふつう］、［きびしい］から選択する



5. ［印刷］を押し、自動検品を開始する
   自動検品の実行中は、機械状態画面に［自動検品］と表示されます。また、実施中の検品レベルも表示されます。



6. 自動検品結果を確認する
   自動検品ジョブが終了したら、本体タッチパネル画面にエラーメッセージがないか確認します。また、必要に応じて自動検品レポートを確認します。

3 自動検品の実施

3-2. 自動検品でエラーが発生した場合

自動検品でエラーがあった場合は、［機械状態］画面や［検査結果］でエラー状況を確認することができます。
エラーがなく自動検品ジョブが完了した場合は、何も表示されません。

エラーメッセージが表示されます。
［検査結果］を見ると、このメッセージは消えます。





［i］ボタンを押すと、エラー情報やエラーの対処方法が確認できます。

エラーとして検出した結果が表示されます。

参考

自動検品で検知した実際の不良状態を確認したい場合は、自動検品レポート内のスキャン画像や印刷物で確認してください。

3 自動検品の実施

3-3. 自動検品レポートの確認

自動検品の結果（レポート）は以下の2か所で確認できます。

AI-101のWeb Utilities（推奨）

ブラウザーを起動し、アドレスバーにAI-101のIPアドレスを入力します。
（例） http://<AI-101のIPアドレス>/

Web Utilities（AI-101）-［自動検査レポート一覧］



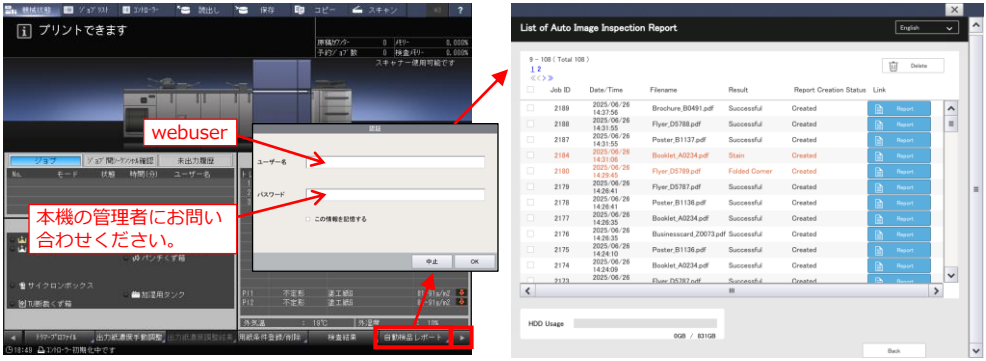
参考

AI-101のIPアドレスは以下から確認できます。

- 操作パネル - 設定メニュー/カウンター -［管理者設定］-［ネットワーク設定］-［自動検品NIC設定］

本体タッチパネル

タッチパネル -［機械状態］-［自動検品レポート］

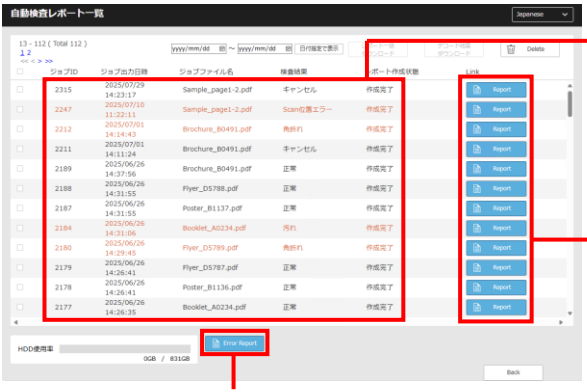


3 自動検品の実施

3-4. 自動検品レポート一覧画面の見方

自動検品レポート一覧画面の見方を説明します。

［自動検査レポート一覧］画面

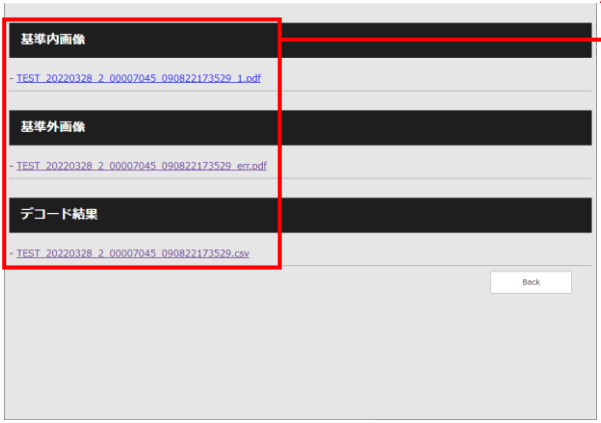


自動検品レポートの一覧が表示されます。不良検知があったジョブは赤文字で表示されます。リカバリーで印刷が正常に終了した場合でも赤文字で表示されます。

［Report］ボタンです。
基準外画像／基準内画像のレポートやCSVファイルを確認する画面が開きます。

［Error Report］ボタンです。
現在印刷中のジョブのエラーレポートを確認したい場合はこのボタンから確認できます。
印刷が完了すると、このボタンは消えます。

自動検査レポート確認画面



事前設定に応じて、レポートが作成されます。

- 基準内画像／基準外画像：PDF形式
- デコード結果：CSV形式

詳しくは**2-2. 各事前設定項目の説明**をごらんください。

参考

PCのWebブラウザからAI-101のWeb Utilitiesにアクセスすると、PCにレポートファイルをダウンロードできます。

3 自動検品の実施

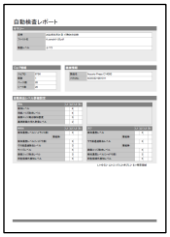
3-5. 自動検品レポートの見方

各自動検品レポートの見方を説明します。

重要

本体タッチパネルでは、基準内画像レポートを閲覧できません。PCからごらんください。

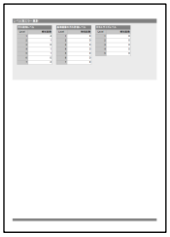
基準内画像レポート／基準外画像レポート（PDF）の見方



1ページ目
自動検品レポートのサマリーページです。
実施した自動検品の情報（実施日時、自動検品レベルなど）が記載されています。

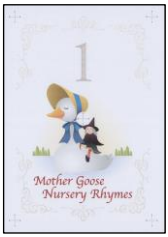
基準外画像レポートのみ

基準外画像のページ数を集計した［ヤレ詳細］も記載されます。
パージした機内残留用紙は集計されません。



2ページ目
レベル別のエラー集計ページです。
エラー項目ごとに、レベル別で集計したエラーページ数が記載されています。
事前設定で［レベル別エラー集計］を［しない］にした場合は、このページは出力されません。

3ページ目以降
（基準内画像レポートの場合）
基準内画像ページです。
IQ-601でスキャンし、基準内と判定された画像を確認できます。
基準内画像ページは、スキャンした向きではなく、原稿と同じ向きで生成されます。



3ページ目以降
（基準外画像レポートの場合）
基準外画像ページです。
IQ-601でスキャンし、基準外と判定された画像を確認できます。
基準外画像ページは、スキャンした向きでページが生成されます。基準外画像ページの詳しい見方については次ページをごらんください。

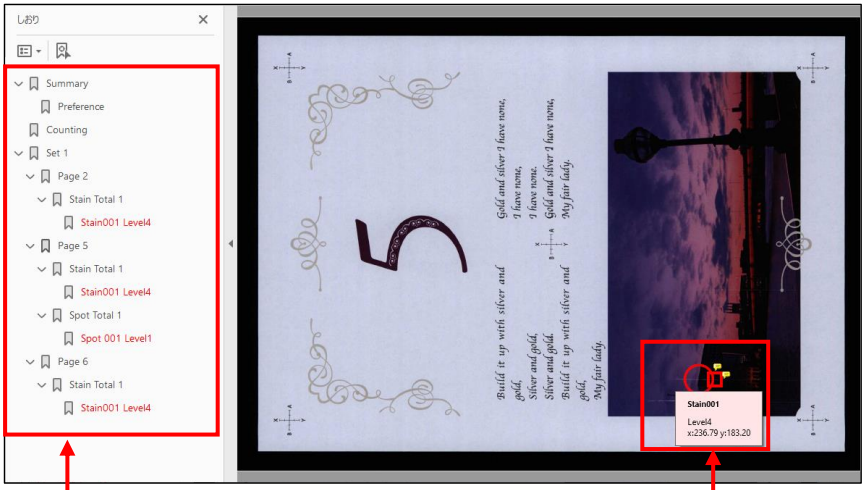


3 自動検品の実施

基準外画像ページの見方

重要

基準外画像レポートは、PCへダウンロードして、Acrobatでごらんください。本体操作パネルやPCのブラウザからの閲覧は、一部機能に制限があります。



検知箇所には、PDF上に注釈が入ります。注釈内には、検知の種類、検知レベル、座標などが記載されます。

PDFのしおりに検知数やページ情報が記載されます。

しおりの表示	説明
Summary	サマリーページ（先頭ページ）へのリンクです。
Preference	クリックするとレポートPDFの表示を設定するダイアログが表示されます。検知項目ごとに注釈の色などを変更できます。 Stain（汚れ）、 Omission（欠け）、 Streak（スジ）、 Spot（ホタル）、FoldedCorner（角折れ）など
Set (n)	基準外画像があった部（n部目）を表します。 しおりの第一階層に表示されます。
Page (n)	基準外画像があったページ（nページ目）を表します。 しおりの第二階層として［Set (n)］の下に表示されます。 クリックすると対象ページにジャンプします。
(XXX) Total (n)	対象ページの検知項目（XXX）ごとの総エラー数（n）を表します。 しおりの第三階層として［Page (n)］の下に表示されます。
(XXX) (nnn) Level (n)	検知項目（XXX）の検知数の通し番号（nnn）と検知レベル（n）を表します。 クリックすると対象ページにジャンプします。

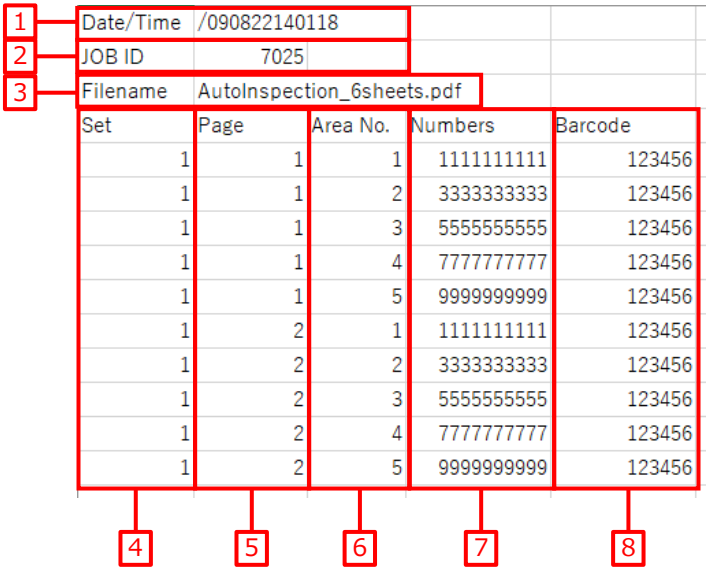
3 自動検品の実施

デコード結果レポート（CSV）の見方

重要

- デコード結果レポートは下記の設定をし、自動検品を行うことで作成されます。
  - 事前設定で［自動検品レポートの作成］を［する］にする。
  - ［シリアルNo.領域］または［バーコード領域］の検査領域を設定をする。検査領域設定について詳しくは、「別冊：検査領域設定」をごらんください。
- 常にデコード結果レポートが必要な場合は、［基準内レポートの作成］を［する］にしてください。

(CSVファイルをExcelで表示)



No.	項目	説明
1	[Date/Time]	検査ジョブの実施開始日時
2	[JOB ID]	自動検品ジョブのID
3	[Filename]	自動検品ジョブのファイル名
4	[Set]	部数
5	[Page]	ページ番号
6	[Area No.]	検査領域設定で指定した領域No.
7	[Numbers]	シリアルナンバー領域の読み取り結果（デコード結果）
8	[Barcode]	バーコード領域の読み取り結果（デコード結果）

4 よくあるご質問

4-1. 自動検品で使用できない用紙／印刷はありますか？

以下の用紙や印刷は自動検品ができません。

- エンボス紙／タブ紙／未印字挿入紙／黒紙**／パンチ穴有り用紙*／印刷部数や枚数がナンバリングされる印刷*／印刷日時が印字される印刷*／スペシャルトナーを使用する印刷**／封筒トレイからの印刷

* パンチ穴や印字部分を検査除外領域に指定することで自動検品が可能です。

** リアルタイム照合（UK-312が必要）の場合、または、スキャン画像の基準画像を用いて自動検品をする場合は、使用できます。

4-2. AI-101のストレージ使用容量は、どこから確認できますか？

［機械状態］画面の［メモリー使用量］から、使用容量を確認できます。

空き容量が不足すると印刷が中止される可能性があります。空き容量が少なくなった場合は、基準画像や自動検品レポートを削除してください。

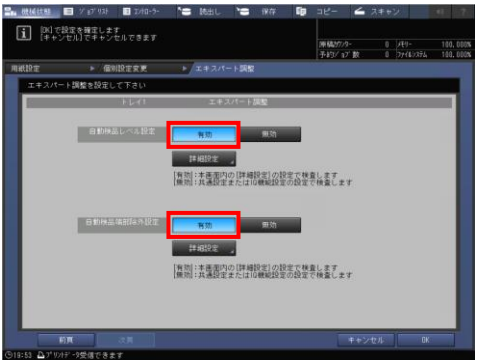




4 よくあるご質問

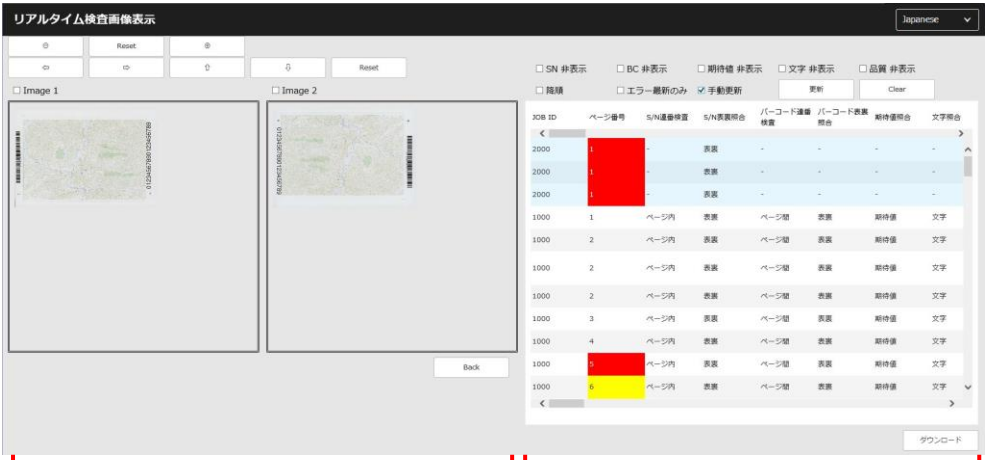
4-3. 自動検品の事前設定項目をトレイごとに設定することはできますか？

［用紙設定］の［エキスパート調整］で設定できます。設定できる項目は［自動検品レベル詳細設定］と［自動検品端部除外設定］です。
［エキスパート調整］で各項目を［有効］にすると、トレイごとの設定が優先されます。



4-4. 印刷中に自動検品が実行されているか確認することはできますか？

Web Utilities（AI-101）の［リアルタイム検査画像表示］で、自動検品の状況をリアルタイムで確認することができます。



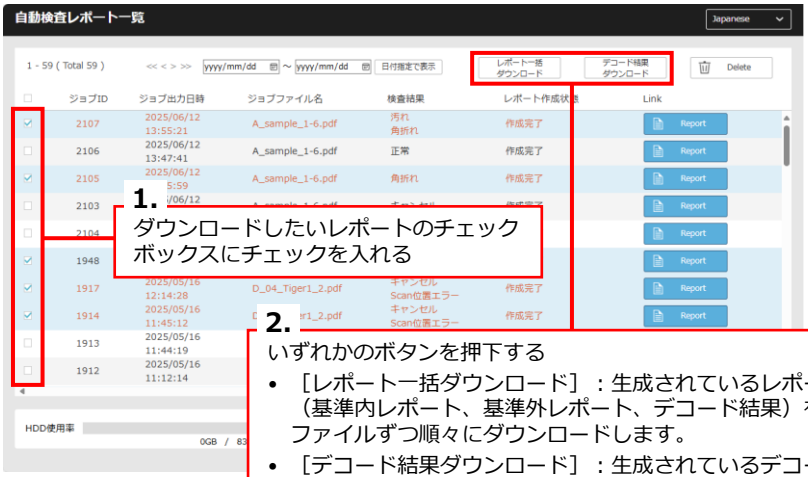
IQ-601でスキャンした画像を
リアルタイムで表示するエリア

ページ情報をリアルタイムで表示
するエリア
赤.....エラーが発生したページ
黄.....パージしたページ

4 よくあるご質問

4-5. 自動検品レポートをまとめてダウンロードすることは可能ですか？

可能です。下記をごらんください。



レポートファイルの命名規則

レポートファイル名は、4つの要素から命名されています。各要素はアンダースコアで区切られています。

AAABBBCCC.pdf_00002107_120625135521_1.pdf

1つ目の要素：
ジョブファイル名

2つ目の要素：
ジョブID（8桁）

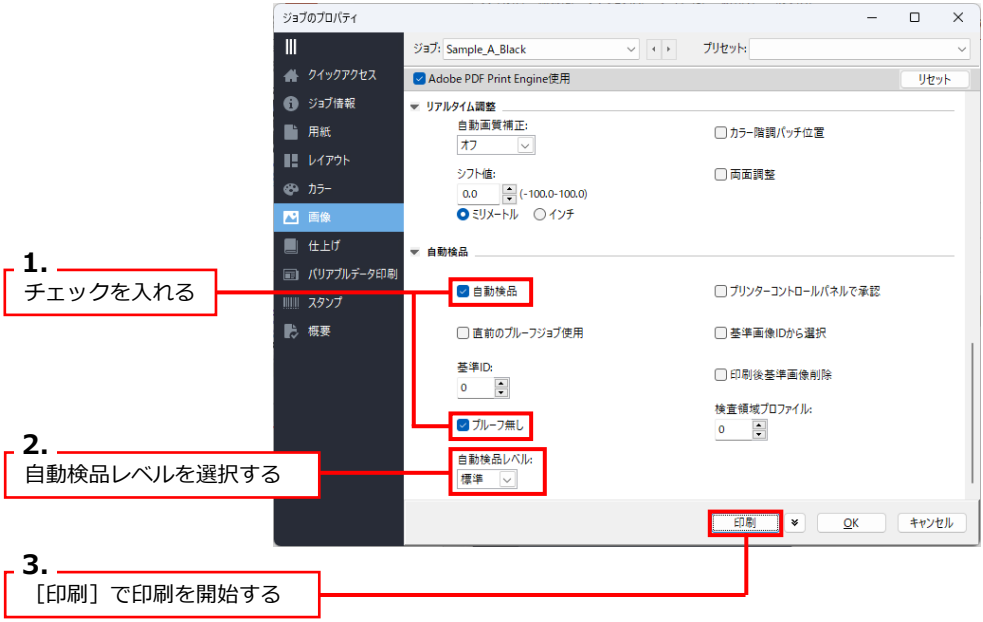
3つ目の要素：
ジョブ出力日時*

4つ目の要素：
レポート種別
- 基準内画像：通し番号（1000ページごとに分割）
- 基準外画像：err
- デコード結果：なし

* 年月日の表記順は、ご使用の地域によって異なります。

4-6. Fieryコントローラーで自動検品を実施したいです。どうすればいいですか？

Command WorkStationの待機キューにジョブを追加し、［ジョブのプロパティ］-［画像］-［自動検品］で各種設定を行うことで、自動検品を実施できます。



© 2025 KONICA MINOLTA, INC.